

お経について（その3）

お経の歴史

【お経を作ったのはお釈迦様の弟子たち】

お経は、教えを説いてもらったお釈迦様の弟子たちにより誕生しました。お釈迦様が亡くなったのは諸説ありますが紀元前5世紀頃と言われており、この頃にお経の原型も生まれたと考えられています。

弟子たちは各地から集まり、それぞれが覚えている限りの教えをその場で共有しました。なかでもお釈迦様の従者であった阿難（あなん、アーナンダ）は、お釈迦様から最も多く教えを聞き、それを記憶していたとされています。しかも、今でいうイケメン（美男子）だったそうです。

【お経が日本に伝わったのは500年代】

お経はインドから中国、朝鮮へ渡ったのち日本へと伝わりました。漢字で記されているものが多いのは、中国で漢訳されたものが多いからです。

日本に伝わったのは奈良時代（500年代）であるとされています。これも諸説あり、朝鮮からの渡来人が既に伝えていたという話もあります。

（写真 木造阿難尊者立像 解説）

この仏像（広島県重要文化財）は、江戸時代までは厳島神社の大経堂本尊であったもので、動きの多い衣をまとい、岩座に立ち合掌している。銅製耳輪は珍しい。鎌倉時代末期（14世紀前半）の作。



木造阿難尊者立像



善教寺永代合葬墓

ように思います。

皆さん仰られるのは、なんとか今日まで田舎の墓を守ってきた。

しかし、コロナ禍で移動が制限される昨今では、今までと同様に田舎の墓にはお参り出来ない。元氣な内に、『墓終い（はかじまい）』して、子ども達の世代に、なるべく迷惑・負担を掛けたくない。今後のお墓について、コロナ禍における先祖の法事について、各種法要行事に関する事、いつでも遠慮なく、ご相談にお越し下さい。

コロナ禍との因果関係は分かりませんが、今年に入り、『墓終い（はかじまい）』され、善教寺永代合葬墓へ納骨される方が増えてきた

寺本堂で勤まることが多くなりました。

感染拡大は、人と人の接触が原因とされており、法要・行事を執り行う際には、参拝者同士のソーシャルディスタンスは当然ながら、寒い時でも定期的な換気を行い、法要料理（お斎）は取り止め、手指アルコール消毒のうえ、ご参拝を頂いているのが現状であります。葬式は、少人数のみ参列する近親者葬となりました。法事は、善教寺本堂で勤まることが多くなりました。

新型コロナウイルスが蔓延して、一年半が経つでしょうか。お寺を取り巻く環境は大きく変化しました。世間の状況と同様に、善教寺においても感染拡大防止のため、種々対策を講じながら、法要寺務を進めております。

住職レター

ここに来て、新型コロナウイルスが猛威を奮っており、ワクチン接種が進み、夏以降、収束していくのかと思っていました。今回の第五波は、怖いくらい感染が拡大しています。ワクチン未接種の若年世代を中心に、急速に広まっているとのこと。